

2017年（平成29年） 12月29日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

12/14~12/20のNYMEX・WTIは、57.04~58.09ドルの範囲で推移した。

12月21日は、停止中の北海パイプラインが1月初めに操業再開するとの見通しの発表で供給懸念は後退したが、前日のEIA週報の原油在庫減少報告や持ち高調整と安値拾いの買いで3日続伸した。2月限の終値は前日比0.27ドル高の58.36ドルだった。

週末の12月22日は、連休前の利益確定売りの一巡後、需給均衡回復への期待感を背景に、値ごろ感による買戻しで、4日続伸した。ペカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が前週比横ばいの747基となったことも支援材料となった。2月限の終値は前日比0.11ドル高の58.47ドルだった。

25日は、クリスマス休日で休場。

連休明け26日は、クリスマスと年末年始休暇の谷間で薄商いの中、リビアで原油出荷パイプラインが武装勢力により爆破されたとの報が伝わり急伸、対ユーロでのドル軟化もあって、一時は2015年6月25日以来の60ドル台を記録、5営業日続伸した。2月限の終値は前週末比1.50ドル高の59.97ドルだった。

27日は、リビア当局によるパイプラインは1週間程度で復旧するとの発表、停止中の北海パイプラインの一部復旧の発表を受け供給懸念が後退したこと、前日高値による利益確定売りが広がったことから、反落した。2月限の終値は前日比0.33ドル安の59.64ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週60.10~61.70ドルの範囲で堅調に推移した。

12月21日62.00ドル、22日62.40ドル、25日62.50ドル、26日は62.70ドル、27日64.10ドルで推移した。

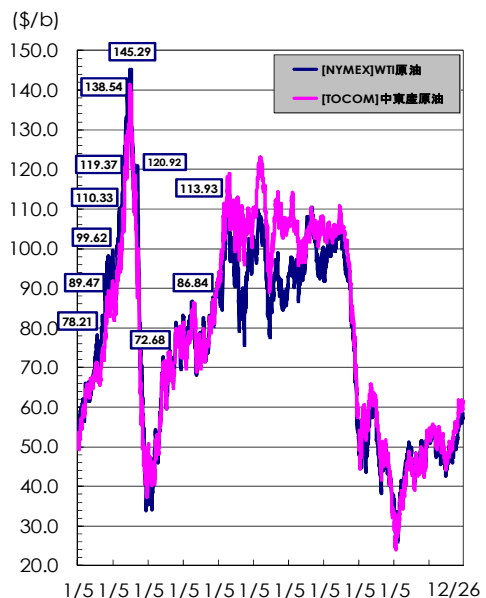
為替は、前週112.40~112.97円の狭い範囲で推移した。12月21日113.22円、22日113.41円、25日113.23円、26日113.38円、27日113.41円で推移した。

財務省が27日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格は、42,974円/klとなり、前旬を1,116円上回った。ドル建てでは60.83ドルで前旬比2.25ドル高。為替レートは1ドル/112.31円。

主要元売会社の1月第1週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに、据え置きと1.0円の値上がりに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油調達コストは値上がりとなった。

そのような中で、12月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同0.2円の値上がりだった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は15週連続の値上がり、灯油も15週連続(18週ベース)の値上がりだった。この週(12月第4週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5~1.0円の値上がりに分かれた。

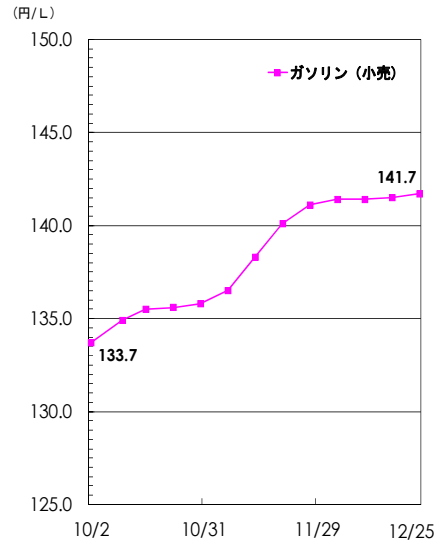
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/17 ~ 12/23	3,828 ▲ 64	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	97.7 ▲ 1.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/23	13,005 ▲ 276	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	12/25	61.47 ▲ 1.21	▲ 8.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	12/26	59.97 ▲ 2.81	▲ 6.1
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	12月上旬	60.83 ▲ 2.25	▲ 14.07
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	42,974 ▲ 1,116	▲ 9,729
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.31 ▲ 1.30	▲ 0.73
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/25	114.23 ▼ -0.47	▲ 3.79



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/17 ~ 12/23	1,021 ▲ 27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,013 ▲ 91	▼ -	
	輸出	"	84 ▼ -10	▲ -	
	在庫	12/23	1,603 ▼ -75	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/19 ~ 12/25	59.0 ▲ 0.4	▲ 11.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/19 ~ 12/25	58.1 ▲ 0.4	▲ 8.1
		(TOCOM/中部)	12/25	58.5 ▲ 1.0	▲ 9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/25	141.7 ▲ 0.2	▲ 11.4	

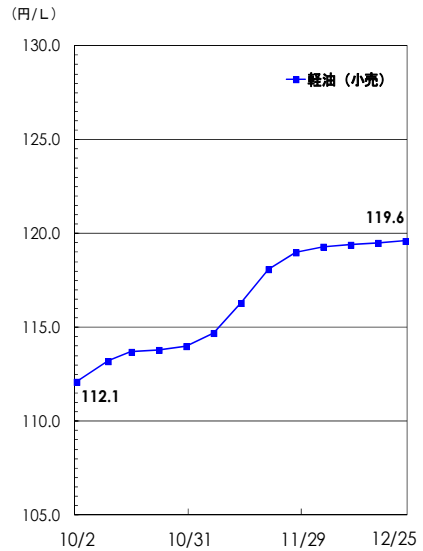
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

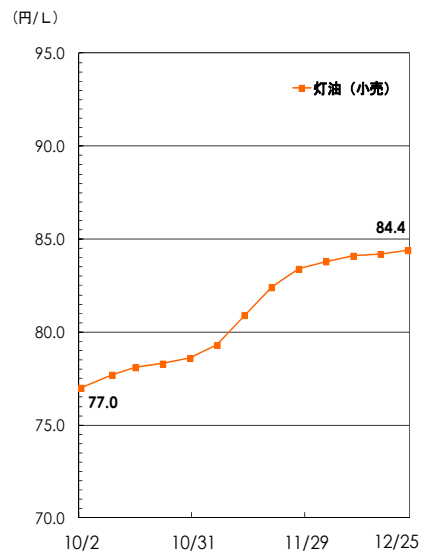
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/17 ~ 12/23	919 ▲ 84	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	690 ▲ 38	▼ -	
	輸出	"	144 ▼ -42	▼ -	
	在庫	12/23	1,499 ▲ 86	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/19 ~ 12/25	59.0 ▲ 0.5	▲ 10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/19 ~ 12/25	58.0 → 0.0	▲ 12.0
		(TOCOM/中部)	12/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/25	119.6 ▲ 0.1	▲ 10.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/17 ~ 12/23	404 ▼ -61	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	516 ▲ 10	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	12/23	2,279 ▼ -111	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/19 ~ 12/25	60.9 ▲ 0.3	▲ 6.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/19 ~ 12/25	60.5 ▲ 0.4	▲ 7.7
		(TOCOM/中部)	12/25	60.2 ▼ -0.5	▲ 8.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/25	84.4 ▲ 0.2	▲ 8.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月27日のNYMEX市場WTI原油は、リビア国営石油が過激派の爆破により停止中のパイプライン(送油量日量10万バレル)は1週間程度で復旧し、同国の原油輸出には大きな影響はないとする見通しを発表、また、漏洩事故で停止中の北海フォーティーズパイプライン(同45万バレル)も26日から一部稼働を再開したとの発表で、供給懸念は後退し、前日高値による利益確定売りも相次いだことから、6営業日振りに反落した。今週の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報は、クリスマス休暇のため、28日の発表。2月

限の終値は前日比0.33ドル安の59.64ドル、3月限の終値は前日比0.31ドル安の59.69ドルだった。

EIAによると、12月25日時点のガソリンの小売価格は前週比2.2セント値上がりの1ガロン2.472ドル(74.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.2セント値上がりの2.903ドル(87.5円/ℓ)。ガソリンは6週振りの値上がり、ディーゼルは4週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、12月17日~12月23日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して横ばいであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は382.8万klと、前週に比べ6.4万kl増加。前年に対しては20.1万klの減少。トッパー稼働率は97.7%と前週に対して1.6ポイントの増加、前年に対しては2.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.7%増、ジェット/11.0%減、灯油/13.1%減、軽油/10.1%増、A重油/5.0%増、C重油/8.2%減。今週のC重油の輸入は4.8万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は14.4万kl(前週比4.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではC重油のみが減少となり、その他の油種で増加した。前年比では、ジェット、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は101.3万kl(対前週9.8%増)と3週振りで前週比で増加、3週連続で前年比で減少となり、8週振りで100万klを超えた。ジェット13.6万kl(対前週47.1%増)、灯油51.6万kl(対前週1.9%増)、軽油69.0万kl(対前週5.8%増)、A重油29.6

万kl(対前週8.6%増)、C重油28.9万kl(対前週1.9%減)。

(単位:千KL)

	今週 (12/17 ~ 12/23)	前週 (12/10 ~ 12/16)	前週比	
ガソリン	1,013	922	▲ 91	(10%)
ジェット燃料	136	93	▲ 43	(46%)
灯油	516	506	▲ 10	(2%)
軽油	690	652	▲ 38	(6%)
A重油	296	272	▲ 24	(9%)
C重油	289	294	▼ -5	(-2%)
合計	2,940	2,739	▲ 201	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月23日時点の在庫は、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは160.3万kl、前週差7.5万kl減。前年に対しては5.1万kl少ない。

灯油は227.9万kl、前週差11.1万kl減。前年に対しては12.0万kl多い。

軽油は149.9万kl、前週差8.6万kl増。前年に対しては7.8万kl多い。

A重油は66.8万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては6.9万kl少ない。

C重油は191.4万kl、前週差5.3万kl減。前年に対しては3.5万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (12/23)	前週 (12/16)	前週比	
ガソリン	1,603	1,678	▼ -75	(-4%)
ジェット燃料	972	1,020	▼ -48	(-5%)
灯油	2,279	2,390	▼ -111	(-5%)
軽油	1,499	1,413	▲ 86	(6%)
A重油	668	666	▲ 2	(0%)
C重油	1,914	1,967	▼ -53	(-3%)
合計	8,935	9,134	▼ -199	(-2.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月19日から12月25日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン112～113円台で値上がり、軽油58～59円台で値上がり、灯油60～61円台で値上がりし推移した。

海上スポット価格は、ガソリン114～115円台で上昇後やや値下がり、軽油61円台で横ばい、灯油59～60円台で値

上がりし推移した。

先物価格は、ガソリン110～112円台で上昇後やや値下がり、軽油58円台で横ばい、灯油59～60円台で値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月19日から12月25日の原油コストは値上がり、製品スポット市況は、軽油の海上と先物を除き、わずかに値上がりした。

1月第1週(12月28日～1月10日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(12月19日～25日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.4円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値上がりだった。

1月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (12/19 ~ 12/25)	前週 (12/12 ~ 12/18)	前週比
スポット 価格	レギュラー	59.0	58.6	▲ 0.4
	灯油	60.9	60.6	▲ 0.3
	軽油	59.0	58.5	▲ 0.5
[期近物/終値] [平均]		今週 (12/19 ~ 12/25)	前週 (12/12 ~ 12/18)	前週比
先物 価格	レギュラー	58.1	57.7	▲ 0.4
	灯油	60.5	60.1	▲ 0.4
	軽油	58.0	58.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4
灯油	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.3
軽油	▲ 0.5	▶ 0.0	▲ 0.2
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

12月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の141.7円、軽油は同0.1円高の119.6円、灯油は同0.2円高の84.4円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は15週連続の値上がり、灯油も15週連続(18%ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは27府県、横ばいは9県、値下がり11都道府県だった。全国最安値は埼玉県136.7円(同横ばい)、次が千葉県137.5円(同0.2円高)、最高値は沖縄県の149.5円(同0.1円高)だった。最も値上がりしたのは、0.9円高の山梨県(141.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5～1.0円の値上げに分かれたが、2週連続でガソリン小売価格は値上がりした。

今週の原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、各油種とも、前週据え置きは1.0円の値上げ、前週値上げの社は据え置きに分かれた。次週(1月9日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

[週動向]		今週 (12/25)	前週 (12/18)	前週比	直近高値	
小売 価格	レギュラー	141.7	141.5	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	84.4	84.2	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	119.6	119.5	▲ 0.1	08/8/4	167.4

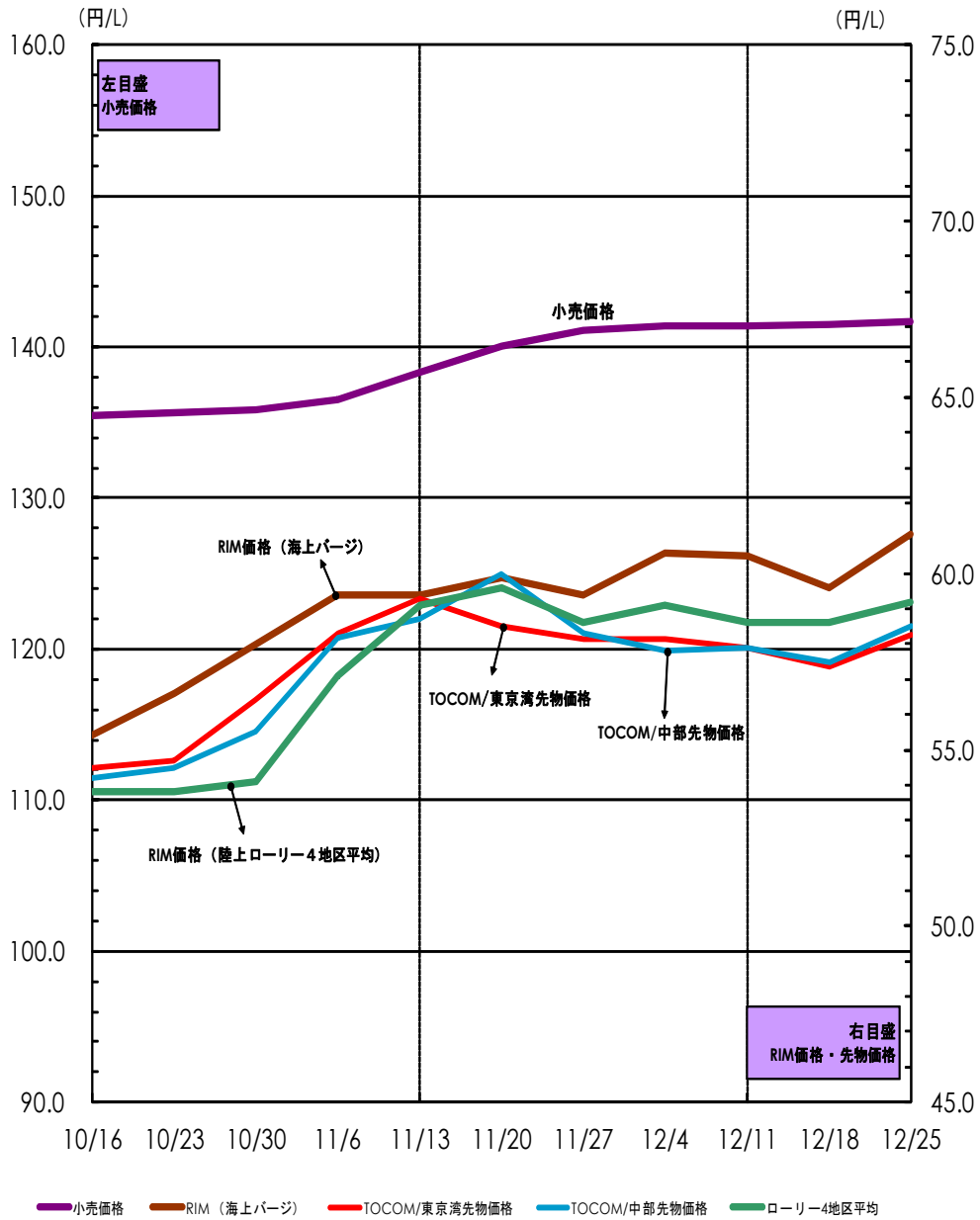
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/10/16 ~ 2017/12/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第38号)の公表は、1/12(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。